

北海道の大自然を未来へ

豊かな北海道の自然を映像と音楽にのせて♪

9月17日(月/敬老の日) 道新ホール

午後1時開演(開場/午後0時30分) 札幌市中央区大通西3丁目 道新ビル大通館8階

入場無料(当日先着順) 申し込み不要、整理券なし

※満員になり次第、締め切ります。

第1部

自然写真家・山本純一のスライド講演 カムイの大地—北海道



山本 純一

1960年帯広市生まれ、札幌市在住。23年間の会社員生活を経て、2007年「Pure Peak Photo」を設立しフリーランスの写真家として活動。現在北海道の自然風景と動物をテーマに撮影を続けている。2012年初の写真集「越冬」を中西出版(株)から刊行。(公)日本写真家協会会員(JPS)、日本自然科学写真協会会員(SSP)、「楽しい写真教室」主宰、道新文化センター講師 / 全日本写真連盟関東本部委員
公式HP: <http://www.yamamoto-photo.com>



- 個展
- 2006年/富士フォトサロン銀座・札幌「越冬—命の連鎖—」
 - 2008年/キヤノンギャラリー銀座・札幌・梅田「Breath of Nature—自然の息吹—」
 - 2010年/キヤノンギャラリー銀座・梅田・札幌・仙台・福岡「Breath of Nature II」
 - 2010年/道新ギャラリー「山本純一セレクション 越冬/自然の息吹」
 - 2012年/キヤノンギャラリー銀座・福岡・名古屋・梅田・札幌「越冬—命の鼓動—」
 - 2013年/紀伊国屋札幌本店2Fギャラリー「越冬—命の鼓動—」
 - 2015年/キヤノンギャラリー銀座・仙台・札幌「原始の大地—知床—」
 - 2015年/斜里町ウトロの知床自然センター「原始の大地—知床—」
 - 2016年/羅臼町ギャラリーミグラード「原始の大地—知床—」
 - 2017年/キヤノンギャラリー札幌最後の企画展「日はまた昇る」



アコースティック・トリオによるネーチャーコンサート

第2部

風の響き、草原の響き、森の響き

岡田浩安

サンボニーヤ、ケーナ

1969年生まれ。12オのときにアンデスの音楽「folklore」に出会いケーナを始める。日本を代表するfolkloreグループ「MAYA」の1987年創立来のメンバー。folkloreをはじめ、さまざまなジャンルのアーティストとの共演、フリーのインプロビゼーション(即興音楽)まで幅広いシーンで活動する。現在までに4枚のソロアルバム、MAYAをはじめとするグループとユニット、プロデュース作品等で10枚以上のアルバムをリリースしている。現在、日本では数少ないサンボニーヤ、ケーナ奏者としてコンサートやライブ活動の一方、南こうせつやKOKIAなどへのレコーディングの参加、映画「生きない」(1999年オフィス北野)などの音楽製作、CDアルバム等のプロデュース、サンボニーヤをはじめとする楽器のワークショップなど幅広い活動を行っている。



葦工房、balsitaレーベル主宰。
<http://www.ashibue.com>



嵯峨治彦

馬頭琴、喉歌

師と仰ぐゴビの遊牧民馬頭琴奏者 Y. ネルグイ(モンゴル国無形文化財)から後継指名を受け伝統音楽の継承に取り組み一方、おたか静流とASIAN WINGS、EPOユニット AQUANOME、RAUMA(w/あらひろこ[カンテレ])、タルバガン(w/等々力政彦[トウバ音楽])、野花南(w/嵯峨孝子[朗読])などの音楽ユニットで活動。松任谷由実、鼓童、川井憲次、ナターシャ・グジー、上間綾乃ほかレコーディング参加作品多数。2017年、大瀧詠一カバーアルバム「NOMADIC VACATION」を井上鑑プロデュースでリリース。



星直樹

ギター、ブズーキ

学生時代よりブルーグラスバンドでの活動を経てケルティック・バンド「HARD TO FIND」に参加する。アコースティックギターにこだわり、ブルーグラスやアイリッシュなど、アメリカとヨーロッパのフォークミュージックを中心に演奏する。フィドルの小松崎操とのアイリッシュ・ユニット「RINKA」ではアイリッシュ・ミュージックに深く傾倒しながらも、独自の音楽を追求している。バンド活動と並行して、近年はソロでの活動にも力を入れており、2016年6月に初のソロCDをリリース。